

令和6年度 第1回甲賀市総合教育会議 議事録

1. 開催日時 令和6年8月7日(水)
開会 9時30分
閉会 11時00分
2. 開催場所 水口西部コミュニティセンター「みなくるプラザ」研修室2・3
3. 議題 日本語指導を通じた教育環境の整備と多文化共生の推進について
4. 出席委員 岩永裕貴市長、立岡秀寿教育長、野口喜代美教育長職務代理者、藤田浩二委員、池田吉希委員
5. 事務局員 (1) 教育委員会事務局
教育部長、教育委員会事務局次長(総務・管理担当)、
同次長(学校教育担当) 学校教育課長、同課長補佐
(2) 総合政策部
総合政策部長、市長公室長、総合政策部次長、
同次長(ICT推進担当)、市民活動推進課長、同課長補佐、
主事、政策推進課長、同課長補佐、同係長
6. 傍聴者 なし
7. 議事内容 別紙参照

○事務局

ただいまから令和6年度第1回甲賀市総合教育会議を開会いたします。今回、松山委員は、ご欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。本日の総合教育会議は、甲賀市総合教育会議設置法第7条に基づき、公開とさせていただきます。それでは、まず初めに、甲賀市市民憲章を唱和いただきたいと思います。

【全員起立し甲賀市市民憲章唱和】

○事務局

それでは開会にあたりまして、本会議の議長であります岩永市長よりご挨拶を申し上げます。

○岩永市長

本日は令和6年度第1回甲賀市総合教育会議にご参加をいただき、誠にありがとうございます。また日頃から委員の皆様方には、こういう分野に限らず多岐にわたる視点から、行政の推進に理解、またご協力をいただいておりますことを重ねて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

ちょうどパリオリンピックが開催中であります。連日報道に接しているわけですが、本当に世界各国から平和ということをテーマに、日頃の練習の成果を発揮され交流を深められるイベントを見ていると、多文化共生、それぞれの繋がりがいかに大切なものかということについて改めて認識を深めているところです。またパラリンピックの方には、本市出身、前回の東京五輪では、銀メダルを獲得された宇田選手も近くご出場の予定であります。地元をあげて、また応援をしていきたいというふうに思っております。そうした中で日本代表チームを見ておりましたも、海外拠点に活躍をされている選手、外国にルーツを持つ日本代表選手というのが本当に近年多く見られるなというふうに考えております。本市におきましても製造業が多く立地をいただいております、この海外事業所との行き来が盛んに行われ、また、多くの外国籍の方が工場勤務されているなど、国際化というのはスポーツだけに限らず、経済面におきましても、非常に進展してございます。そうした中で、今年度より教育委員会におきましては、第2かわせみ教室を綾野小学校内、市長部局においては多文化共生センターをこのみなくるプラザの中に、それぞれ設置をしたところでありまして、本日は、それぞれの施設の取り組み内容また課題も共有をさせていただき、相互に連携を図りながら、多文化共生のまちづくりを進めていくための議論をいただきたいと思いますので、皆様方からは、ご意見、活発なご議論をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。それでは本日の議題に移らせていただきたいと思います。
甲賀市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、議長は市長が行うこととなっておりますので、市長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

○岩永市長

それでは早速議題に入らせていただきます。
本日の議題は、日本語指導を通じた教育環境の整備と多文化共生の推進についてであります。事務局の方から資料説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

資料に基づき説明

○岩永市長

それでは意見交換に移らせていただきます。

○野口教育長職務代理者

十分な説明をいただきましてありがとうございました。私はここ、みなくるプラザおよび多文化共生センターが総合教育会議の場所になり、木の香りを感じながら多文化共生の推進というタイムリーなテーマだと喜んでおります。令和3年に教育大綱の中で、多文化共生が教育委員会だけではなく、市全体の中で施策として大きな意義があるので、議論させていただきたいと思います。地域の中で外国の子どもたちの実態や地域での日本語指導の実態、今の取り組みについて教えていただきたい。
多文化共生の良さをこの場所でどう生かすかという視点で見た場合に、学校の中では、国際教育にどのように生かされているかお教えいただきたい。

○岩永市長

ありがとうございます。
まず地域の中での、外国籍の子どもたちの実態についてお願いします。

○事務局

地域における多文化共生の取り組みは多々ありますが、伴谷地域で教員OBさんを中心に外国にルーツを持つ子どもたちのために学習支援教室を夏休み冬休みにしてくださっています。また、国際交流協会の地域交流チームにおきましては、例えば地域のNPOさんの力を借りて里山ネイチャー体験をしていただいていたたり、希望ヶ丘では、それぞれ国々からお国柄の料理を持ち寄ったポットラックパーティーに子どもた

ちも参加していたりしています。この自然な交流の場に大人、子ども、日本人、外国人が地域の中で参加していただいていないというのは、まだまだ市の方から働きかけが不十分なところがありますので、自治振興会、区・自治会に働きかけていくというのが重要なかなと思っているところです。

○岩永市長

伴谷の学習交流会は、外国にルーツを持つ子どもたちだけではないですね、対象は広く。

○事務局

外国にルーツを持つ子どもたちもそれ以外の方も含めて交流の場になっています。

○岩永市長

続いて、学校の中で国際教育にどのように生かしていくのかについて何かございますか。

○事務局

学校の中では国際理解というかたちで、学校に在籍している子どもたちのルーツのある国について、母語支援員の方やゲストティーチャーに来ていただいて、子どもたちは総合学習の中で学んでいくことを位置づけています。3年生から6年生の総合学習の中で縦で貫いて取り組むことで、「この国にルーツがあるんだ」、「あなたの国って素敵だよ」と子どもたちが総合学習を通して体験したり、学校にルーツを持つ子がいる、いない関係なしにいろんな国で目を向けて、例えば6年生では色んな国について調べて、発表したりとか、色んな周りの国をみて、この学校にはたくさんの方にルーツを持つ子がいることも普通に受け入れられるような取り組みをしている学校が多いと思います。

○野口教育長職務代理者

総合学習の中で国際教育をとらえることが多いとのことですが、学校間でも差があり、年に1回のハロウィンで国際理解と考えているところもあるので、そのあたりを教育委員会で全体として見て欲しいと思います。

柏木小学校では母語支援の方が「逆にブラジルの子の立場に立てる？」っていうテーマで担任の先生が、母語支援員の方とポルトガル語で算数の授業を進めて、子どもに言葉がわからないという体験をさせていました。

他の学校では、テキサス州のALTに1時間を持ってもらって、アメリカの国際理解をされていて感心しました。市全体に、また広げて欲しい。

先ほどの伴谷自治振興会や佐山小学校の事例はぜひ学校側も知ってもらいたいと思います。伴谷地域は、外国人人口が11%で、地域全体が動いている中で学校があり、地域、市の施策があるというところを共通認識とさせていただきたい。

○藤田委員

私も夕方スーパーに行くと外国籍の方がたくさんいらっしゃるのを実感しており、民生委員として町内の配りものを案内に行くと、子どもがいないとご両親が日本語をわからないので、子どもさんがいる時に伺うということを何度かしています。ヤングケアラーの問題、お父さんお母さんのことで学校を休んでいる子どもがいるのではないかと、思うことがあり、状況を聞かせていただきたいです。

また、自治振興会にて行事参加を呼びかけていますが、案内がなかなか届かないようで、打ち合わせで案内チラシ等の翻訳の話が出てきますが、日々のコミュニケーションを通じて伝えられることができないかと思います。とりあえず、挨拶はしていこうとやりかけていますが、伝わっているのかはわからないので、地域からの働きかけをどういうふうになさっておられるのか、状況を聞かせて欲しい。

○岩永市長

学校の中で、ヤングケアラーについて知ってらっしゃる情報はありますか。

○事務局

おうちの方、保護者さんの通院と一緒に付いて行って、母語支援的な役割になったり、ビザの申請であったり、子ども本人のこともあるかもしれませんが、一緒に付いて行って通訳をしていることはございます。

○岩永市長

地域の支援というか繋がりについてはいかがですか。

○事務局

実際、民生委員さんの声を聞いたこともあります。また、どうしていけばいいのかについて、他市の状況も調べると、まずは各公共機関がしっかりと通訳を置くということが前提で、市からハローワーク、病院、保険事務所などに通訳を置いていただくよう働きかけていくことと、通訳の常設が難しいところについては通訳の派遣制度の導入を検討するなど対策を考えていく必要があると思っています。

○藤田委員

変に力を入れてやると、逆に迷惑になるような思いもするので、普段のつき合いの中

で、打ち解けるのが一番ですが、町内の行事の中に入っただけだと、和んでいく、わかっていただく手だての1つになると思っています。働きかけの手段を何か考え、伝えられたらいいのかなあという気はしています。

○野口教育長職務代理者

ヤングケアラーの問題だと一番困るのは、学校の先生だと思います。授業計画もあるので、教育委員会として、この場合は保護者の通訳に子どもは行かせないでほしいといった連絡を出してもらえたらと思います。

今一番心配しているのは大人のケアラーです。家族で介護しようとする外国籍の家庭に対し、情報提供が必要な気がします。

○池田委員

滋賀県の公共職業訓練の定住外国人向けコースを受託し、4ヶ月間毎日朝9時から4時まで6時間通っていただくコースを10年間実施しています。どのような機能を果たしているかについて落とし込んで考えてみましたが、1つ目は文化の理解の促進する役割、2つ目に言葉が話せない壁について、その気持ちを癒す機能、3つ目は日本語の上達があります。文化の理解とか、話せないことについて癒すことは、コミュニケーションをすればできますが、やはり日本語の学習、日本語のレベルを上げることについては、非常に困難で4ヶ月やってもなかなか難しいという実感があり、日本語が出来ないから、職業の選択肢が少なくなるという現状があります。いろいろ施策がありますが、私が言いたいのは、機能をちゃんと絞ってやっているか、というところ

です。
方針、役割をしっかりと分ける、繰り返しになりますが、文化の理解、癒しの部分と日本語学習とを分けないといけないと思います。

○岩永市長

非常に大切な論点だと思います。

かわせみ教室を考える上で日本語教室に特化できているのかどうか、居場所になってないかと考えると、本当に大事な論点だというふうに思います。野口教育長職務代理者、ご意見はございますか。

○野口教育長職務代理者

3か月という期限のあるかわせみ教室の位置付けは、生活に役立つ日本語、基礎の日本語、教科の日本語を統合して、学校教育に近づけながら、日本語の能力をつける面で現場のご苦勞があるのではないかと思います。

○岩永市長

今池田委員さんと野口教育長職務代理者がおっしゃる内容の課題感を教育委員会から教えていただきたい。

○事務局

かわせみ教室や各校の日本語指導の中で生活的な言語は、大人の方より子どもたちの方が成長するスピードが早い、ということは実感しています。学校の現状を見てみると、外国籍の子どもたちが固まって生活しているところをよく見ますが、その中に日本の子が入っていく中で中和され、広がって、日本語に慣れていく、日常会話はかなり上達しているのは見えるところ。ただ、野口教育長職務代理者がおっしゃるように、学習の部分と繋ぐ部分で考えると、教科特有の言葉、社会歴史等を勉強する中で専門的な言葉が出てくるところで詰まる子がたくさんいます。そこを易しく教えるのは教師側も難しい課題です。母語支援員さんが周っていただいてフォローしていただいています。人や時間の制約があり、学習の中での言語に教員も苦労しながら、全体学習以外に関わっているものの難しい言葉については、差が出ると思っています。

○岩永市長

教育長あたりどうですか、校長先生の感覚ってどうか、認識ってどうか、課題みたいなところ。

○立岡教育長

日本語指導の技術を学んでから、教員になっている教員がいない、それぞれの学校にて手探りで日本語の指導にあたるということが現実であります。やはり野口教育長職務代理者がおっしゃるように、力がつく、つかない部分もありますので、国は国で、JSLカリキュラムという、大まかな学習の言語学習の方向性やプログラムを示しています。そのまま学校のカリキュラムに組み込むことは大変ですが、内容がよく出来ていて、スタートはサバイバル言語、健康や安全、アレルギーなど本当に命に関わるようなものから言語を始めていき、次に学習の言語にいくというプログラムの基礎になるようなものを国として用意されていますので抽出して、計画的に進めていきたいと考えていますが、該当の学校においても、具体的な取り組みには至っていない状況かと思っています。

○野口教育長職務代理者

文科省が外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議報告書を出した時から、甲賀市は、キャリア研修、進路ガイダンス、国際理解も全部やっています。課題としているのは、子どもたちの日本語能力、日本語の学習をどうするのかということです。

先生の子どもの日本語力をつける能力、力量を上げるために、校長先生など管理職が各学校で文科省のアドバイザー、専門家による日本語指導の研修時にかわせみ教室も含めた全員の先生に参加を促して欲しいと思います。また、地域や国際交流協会にもっと目を向けると教えるスキルを持つ人材がいるので有償のボランティアで学校に行ってもらうところを増やすことで、地域コミュニティ内から手伝っていただける方が出てくると先生も楽になると思います。

○岩永市長

ただいまのご意見について、日本語を教えるプロ作りをしっかりとっていくというような観点から、今課題感であるとか、取り組んでいる内容があれば教えていただきたい。

○事務局

かわせみ教室の現状としては先ほど池田委員がおっしゃっていただいたように居場所的な存在になっており、日本語のレベルを上げることは大きな課題だと思います。指導者のレベルを上げ、初任者研修が実施されていますし、京都教育大学の浜田副学長の研修もあります。かわせみ教室に関わる職員は、研修をして、スキルを上げることが子どもたちに繋がりますので、しっかり取り組んでいきたい、改善していきたいと思っております。かわせみ教室までの移動の手段も課題であり、水口だけではなく、甲南においても外国籍児童が潜在的にいることも理解しておりますので、しっかり検討させていただき、環境づくりに努めていきたいと思っております。

○岩永市長

今、ご意見をお伺いして、私の印象ですが、教育委員会と学校の現場に負荷がかかり過ぎていると思います。かわせみ教室も日本語教室というより居場所、福祉的な場所になってきているというのも、教育以外の生活の課題全部が学校の現場に負荷がかかり過ぎて、本来あるべき役割をなかなか履行出来ないような状況になってしまっているのかと感じました。

総合政策部で今回、多文化共生センターを作って、課題をしっかりと整理して、日本語のレベルをしっかりと上げていくという役割、教育委員会の本来の役割に特化した機能を果たす上で、今後、多文化共生センターと自治振興会、地域のいろんな福祉の手助けの中で、役割分担、連携を目指していこうとしているのか情報共有したいと思います。

○事務局

5月に多文化共生センターをオープンし、まずは外国人相談の相談窓口設置、日本語初級者への日本語教室を推進・促進していくということ、子どもの学習支援の3本柱

を目的として動かし、地域の外国人の方に近い国際交流協会の方と一緒に取り組むを始めたところでございます。総合政策部も自治振興会と包括的な連携をさらに伸ばして広げて、着実に子どもたちの日本語の理解を促進、推進していく、更に理解していただくために取り組んでいくことで、教育における言葉の理解も進めていけるよう教育委員会と連携に努めていきたいと考えております。

○事務局

教育委員会のかわせみ教室と多文化共生センターの情報共有がお互いできていない状況でございます。外国籍の保護者の理解をいただいた上で情報共有をさせていただくことで、多文化共生センターとかわせみ教室でも生活相談を受けて、今後協議、調整し、より効率よく運用できればと思っておりますので、多文化共生センター、国際交流協会とも十分情報交換し、取り組んでいきたいと思っております。

○野口教育長職務代理者

先ほど市の報告に相談窓口に1日40件ぐらい問い合わせがあり、その中に教育の項目があるとおっしゃっていましたが、教育の相談がかわせみ教室だけではなく、多文化共生センターに持ってこられたら、と思っているので、そのあたりの連携をお願いしたい。

また、多文化共生センターとしての学習支援をどう位置付け、連携がどうあるべきか知りたい。毎週水曜日の2時から4時に学習支援をしていただいている、内容を見させてもらっていると、学校の課題、生活の課題、親の悩み事の縮図です。協会が外国語教育の最前線で教えた学習内容を教育委員会とどう連携を持つのか、個人的な情報は出せない障壁がありますが、大事なことがきちんと繋がる情報共有の場は必要だと思います。

○岩永市長

教育委員会の負担感があって、いろんな教育以外の組み合わせについても現場では対応をいただいているところで、総合政策部から教育委員会に対し、連携について課題があれば教えて欲しいです。

○事務局

多文化共生センターができることによって、外国人児童の子どもたちも立ち寄っていただける状況を作っていこうという思いの中には、学校現場をサポートしていきたいという思いが強くなります。学校の先生方は非常に多忙だと思います。その負担軽減を図るためにも多文化共生センターにおける日本語教室や外国人児童の学習支援があると思っておりますので、是非とも学校の先生方は、我々を頼っていただきたいと思

っていますし、地域の皆様方を頼っていただきたいと思います。

先ほど日本語教室の教師ですか、私も把握している限りでも、市内にはそういった高度な知見を持つ方、有資格者の方も10名近くいらっしゃると思います。そういった人たちを学校現場にもしっかりとお届けできるような人材バンクや派遣制度というのも作っていくというのは、この多文化共生係であり多文化共生センターの役割であると思っています。

○野口教育長職務代理者

日本語力をつける、学力をつけるための勉強をされた人が地域にたくさんおられますが、紹介するルートがありません。それと日本語外国語コーディネーターの船見先生が日本語指導を担当している先生だけじゃなくて学校全体の日本語指導の教育研修会回りたいとおっしゃっていたので利用されたらどうでしょうか。

○藤田委員

第二かわせみ教室の開校式で教育長が話の中でかわせみの写真を見せられていました。かわせみってどんな鳥というわかりやすい言葉で、子どもたちは食いついていた。視覚に訴える手段を使ったやりとりをして、わかり合える、通じるところがあると思いました。私も放課後等デイサービス事業所に勤務しており、外国人の保護者と話す機会がありますが、通訳の方と電話したり、翻訳アプリを使ったり、写真を撮ったりされているが、本当に通じているのか不安に感じることがあります。不安なところを軽減できるような普段からのやりとりが自然にできていくと良いので、地域の住民として、地域のイベントにどんどん声をかけて来てもらうのが1つかなとは思っています。学校教育は学校でしないといけないことがあるので、子どもに応じた授業をする手だて、先生の方の研修も含めて、きっちりとできることはやっていかなければならない。今、情報があってもうまくコーディネート出来ないことを聞かせてもらったので、うまく繋いでいく方が出て来てくれるといいという思いです。

○池田委員

指導者のレベルアップというお話もありましたが、現場の様子を想像すると、おそらく長年のご経験をお持ちで、非常に芯もプライドもありながらやっておられる先生が例えば、国語の文法、日本人向けの文法を長年教えてきて、外国籍の子どもに教える必要が出てきたときに初心に戻ってやってもらう負担が現場の問題ではないかと思えます。

もう1つ、全然違う視点では、日本語学習について、日本の中で他市町の成功事例の有無を調べていただくと、あまりないのではないのでしょうか。短期間で日本語が喋れるようになるという事そのものに疑問を持つと、ICTや違う方向から甲賀市の特徴

を作るような施策の方が面白いところがあるのかもしれませんが、日本語を喋れる子は、両親のどちらかが日本人です。よほど環境が良くないと、短い期間で大きな成果を上げることが期待することが難しいのであれば、違う手法やサポート、視点からで独自性を出す方法もあるのかと思います。

○野口教育長職務代理者

わずかな人数がかかせみ教室に行ける状況ですが、3年前ぐらいからオンラインで繋ぐ方法を教育委員会で検討を始めてくださっています。また、日本語指導の先生たちを採用するとき、元教師の方が教育力、経験があり、指導方法が日本語能力の向上に当てはまります。子ども達の扱いも上手く、感情的にならずに日本語の言語能力を向上できるのは、日本語の指導が何かをわかっている必要があります。母語支援員の応募条件に日本語指導を加えると、教職の経験者がすばらしい力が発揮できる場になると思います。

○岩永市長

日本語教室や指導について意見をいただけたらなというふうに考えておりますが、その他で、多文化共生の大きな枠組みの中で課題感、ご意見ございましたら、ぜひお問い合わせをさせていただければと思いますがいかがでしょうか。テーマを変えさせていただきたい。

○野口教育長職務代理者

本日全体を聞かせてもらい、何のためにこの多文化共生という言葉を使うのか、皆さん一人一人はどんなお考えでしょうか。

もう1つは、進路ガイダンスです。進路ガイダンスは、多文化共生の切れ目のない1つの過程です。キャリア教育という位置付けで進路ガイダンスを考えた時に高校の先生が出席されていません。高校の先生の出席がないと、直接保護者から質問に答えられない。お考えを教えてください。

それから多文化共生がなぜ教育大綱の中で、重要な施策の柱になり、何を指してらっしゃるか教えていただきたい。ちょっと抽象的ですが。

○岩永市長

多文化共生の根本的なところの認識をここで合わせておきたいという話ですが、どうでしょうか。

○事務局

国際交流や国際理解から始まったことが、数年前から多文化共生という言葉に変わっ

てきましたが、お互いを信頼していくことが一番かと思っております。特に甲賀市で言いますと、多くの外国人の方が住まれるようになって、国際交流だけではなく、生活を一緒に安心して暮らすためには、地域のルール、お互いの文化も知っておかないといけないことが基本にあると理解をしています。

○事務局

地域で暮らすコミュニティを考えると、多文化共生は必然的になくはない存在で、課題だと思っております。私の住んでいる地域ではつい先日、初めて外国籍の方が空き家に移り住んでこられて、身近な存在になってきています。多文化共生は、もうこれからの私たちの暮らしには、なくてはならない存在で、進めていく必要があると思います。行政として、社会保障面についても、市全体の部局で取り組みを進めていく必要があると考えております。

○岩永市長

進路のガイダンスについては先日、私が重要項目の中に入れて、滋賀県知事に県立高校の支援を強く要望しました。知事は滋賀県が外国人枠を県立高校にもってないことが全国的に少数になっていることとか、進路ガイダンスに県立高校の先生方の協力への認識がなかったのが、早急に知事として課題感を持って進めていきたいとお返事をいただきました。県の協力も必要だと思いますので、しっかりと動かしていきたい。

○野口教育長職務代理者

ご意見ありがとうございます。

共通しているのは同じ人間として、たまたま隣にいた人が外国籍の人で、困っているのに気がついて助けているだけの話で、外国の人であれ、どんな人であれ、同じです。私も活動する中で、同じ社会を構成するものみんなの共通した課題であるということ。要は違う文化、価値観、考えに出会って見たら、自分の心が豊かになります。違った価値や文化を知ること、さらに自分が何か新しいものを獲得できそうな新しい雰囲気もらえるようなものが多文化共生かなと最近、思い出してきました。

○岩永市長

多文化共生って言葉は、もしかすると人それぞれ違う認識があるかもしれないですし、今野口教育長職務代理者からイメージの共有をいただきましたが、同じ市民で困っている人がいるから助ける、「多文化」という言葉はもしかしたら「多世代」という言葉になるかもしれませんし、それぞれ違いがある人たちが一緒に暮らしていく中で困っている人に手を差し伸べるのは当然のこととして、繋がりから得られる刺激をポジティブにまちづくりに生かしていく観点はぜひ共有した方がいいスタートが切れると

と思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

外国文化共生については、日本人がこれだけ人口が減ってきている中で地域を支えてもらえる外国人の方に来ていただけるよう経済的な支援を含むメッセージを送りながら、甲賀市の住民すべて、みんなが有益なもので、権利とか文化、価値観を尊重する、意識の醸成を実践すること。それがお互いの文化を知り合う、分かち合えることで、多文化共生の地域づくりに繋がると思います。

○事務局

この10年間で外国人が倍増している、10年先はさらに倍増するかもしれない、年代別のグラフを見ても、この先は外国人の方が介護を受ける世代になられたりすると違う問題が発生してくる中で、結果的に外国人の方を排除するような形では、世の中進んでいけないと思いました。また、親の行政手続きで、子どもが学校を休まなければならない、子どもの教育を受ける機会を奪ってしまっているのはショックでした。私はICTを担当しておりますが、多言語対応といった条件をつけて行政手続きのオンライン化等を進めていく中で、全てに対応できていると言えない状況で、誠に申し訳ないのですが、個人の利用環境に頼っている部分もございます。今後、子どもが学校を休む状況にならないよう24時間365日手続きができるようICTの導入を続けていきたいと思っております。

○事務局

日本人も外国へ行く世の中で日本人が外国で生活ができるかを考えたときに、子どものときから多文化共生で相手のことを知り、相手を受け入れる教育は、国際的な人間を生み出す土台になると思います。世界に発信できる子どもたちが、甲賀市から生まれる教育を人は人として理解できるよう発展させていきたいと考えております。

○事務局

私は昨年から教育現場を見ていますが、かわせみ教室って学校教育がすることなのか疑問があります。あくまで日本語初期指導で実際に学習まで届くところまで到達していないのが現実ですし、外国から転入されてきた方がかわせみ教室に通っていただくのに、国際交流協会が担っていただく、学校現場に市長部局が入っていくことで出口が見えてくる、と感じています。入っていただくことで連携ができると個人的に思わせていただいたところです。また母語支援員さんの面接で、応募してくださる中で、喋ることができても、訳すこと書くことが出来ない、人柄などの問題はなくても、能

力的に採用が出来ないという方を見てきました。多文化共生といいながら、外国人の方が活躍できる場所が製造業、工場が多い現状ですが、甲賀市に来たら、例えば教育現場で活躍できる、いろんな業種で活躍できるというような環境整備も必要かなと思いました。教育現場で日本語を教えたいという思いを持っていらっしゃる外国人の方に何かしらの支援も必要と思っています。また、今年の4月から日本語指導教員が国家資格化されました。教員免許を持っていなくても取得できますが、420時間の教育課程は、民間事業者の講習を受けなければならず、60万ぐらいの費用がかかるので、市として日本語指導教員を育成する事業で多文化共生に興味を持つ方を支援していくという施策も必要になってくると感じています。

○野口教育長職務代理者

日本語初期指導で、外国から来た子どもがいきなりかわせみ教室に登校するのではなく、本来の学校の本来の学級に在籍しているという意識づけが要ると思います。かわせみ教室に通う前に本来のクラスメイトと顔を合わせて「かわせみ教室に3ヶ月間行く」と伝えるだけでも、本来の学校、学級やクラスメイトが持つ価値があるので、子どもたちに伝えてあげて欲しいです。

○藤田委員

地域で、学校で、安心できる、ゆったりと落ち着いて過ごせる居場所をいろんな形で整えていかないといけないと思いつつ、聞かせてもらっていました。いろんな思いを持って学校へ通う、あるいは地域で生活するのが実態としてあって、まわりの者がどんなことができるのかをじっくり考えて、何でも楽しく、今までやってきたことにプラスして考えていこう、地域の住民として頑張れたらと思います。

○池田委員

私にとって多文化共生は、当たり前前の状態に戻すだけのイメージがあつて、何か作って、何か講じていく、枠組みを作っていくというのではなく、要らない枠組みを取っていくイメージで、接しないといけない。熱さは要らず、コミュニケーションは知らないことをお互い知り合うというだけのことで、すごい力を使うというより、当たり前前の状態に戻すだけだといつも思っています。

○岩永市長

本当に日頃から認識している課題、指導者研修や学校の教育現場の具体的な話であるとか、多文化全体についての共通認識を持つというような非常に有意義な議論、ご意見を伺えたと思っています。本日の会議を踏まえまして教育委員会、また学校現場、みなくるプラザ、多文化共生センター、国際交流協会、市長部局含めて連携をして、

課題を解決していく来年度予算に反映し、提案をいただきますようお願いを申し上げます。事務局の方に進行をお返ししたいと思います。

○事務局

ありがとうございました。

本日の議事録につきましては、事務局で作成いたしまして、後日、ご確認をいただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

それでは閉会にあたりまして、立岡教育長よりご挨拶を申し上げたいと思います。

○立岡教育長

ありがとうございました。第1回の甲賀総合教育会議の閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。今日は市長、そしてまた教育委員の皆さんに多数お集まりいただきまして、限られた時間の中で日本語指導を通じた教育環境の整備、多文化教育の推進というテーマで、本当に内容の濃いお話をお聞かせいただきありがとうございます。私も最後に少し思いを伝えさせていただきたいと思います。

昨年、湖南省市との研修会の中で、企業の社長さんがベトナムから働きに来られた方への対応についてのお話を伺いました。企業自体がベトナムの方に合わせた対応を行っているスタンスが伝わりましたが、そのことを考えると学校はまだまだ、子どもたちを学校に合わせさせていると改めて感じ、さらにできることがあるのではと想像していたところです。何十年前の話ですが、ブラジルから4年生のときに転校してきた子どもが、6年生ではクラス委員長になって、卒業していくことがありました。国籍にかかわらず、1人の子どもが強みを伸ばして、どう育っていくか、育てていくかというあたりに尽きる、と改めて思いました。

市が20年前に合併したとき、外国人児童はちょうど100人になるかならないかで日本語教育を担当する教員が少なく、こまめに集めている方々の研修が丁寧にできていたと思いますが、今は外国人児童の人数が増えて、人は手厚く配置しているものの、教育委員会の今の課題は、日本語の学力をどのように保障していくか、日本語力をつけていくかということだと考えております。かわせみ教室は日本語初期指導で、学校での日本語教室とは目指すところが少し違っています。将来、かわせみ教室は、リソースセンターとしてノウハウを蓄積して、みんなの指導に活かすイメージができています。

新たに日本語指導の担当教員になると1から研修では教員の負担感が増すばかりで働き方改革に繋がっていないと思っています。各学校の日本語指導の先生方は、指導法或いはマニュアルを生かしながら、中学卒業後の進路を確保していただいておりますが、日本語指導体制を考えていく必要があります。国が示している指導方法も参考にし、実際の現場で活用できる甲賀市版を作りたいと思っています。

最後に多文化共生については、私の答えは、新しい豊かさを共有するためだと思っています。お互いに夢の実現に向かって進んでいく、大切な甲賀市民の1人としてつき合っていきたいと考えております。

本日は本当にありがとうございました。